

# 親が作る子どもへの「自己肯定感」

自分は「テキル奴だいや」「ダメな奴だ」あなたの子どもはどつ感じているかご存知ですか？お隣の韓国では後者はたったの5%で日本は25.5%つまり若者の4人に1人は自己肯定感が低いのが現実です。あ、謙虚さを持つことと自分を「ダメな奴だ」と思うことは似て非なるものです、念のため。

さて、私が相談を受ける生徒も後者がほとんどです。我々の教育理念は「社会でイキキする人材の輩出」つまりカリキュラムのすべてを卒業後にフォーカスしているため「自己肯定感の養成」こそが最大のテーマなのです。その理念をもって日々生徒と向き合っているなかで、大きく立ちはだかってくるのが「親」の存在です。「ウチの子は学校には行けていません、でも大学には行かせたいんです…」いくらリモートが流行るうとも、社会生活の基本は対面の「コミュニケーション」であり、学力の心配をする前に「通学できる心身」を取り戻す方が先であることは明白です。「私がついつい言い過ぎちゃってんのです」とうそセリフもよく聞きますがその「ついつい」も10年以上続いたら子どもにとっては「恐怖」ではありません。「父親は何もしないんです」「いやいやあなたがやりすぎるからでしょっ？」とついつい突っ込みを入れてしまっつほど、矛盾だらけの親が多いこと多いこと。

そつとした親の根底に「愛情」があることは間違いないのですが、その愛情の表現方法に問題があるのです。特にやっかいなのが「自分は正しい」と思っていること。だから少しでも反発されると、

ぐ悲観的になったりするものだから、子どもたちは親の「思い込み」に泣々従ってはみるものの、やがて「めんどくさい」「もうやーめた」と負の連鎖に陥り「引きこもり」や「非行少年」の完成というわけです。

改善策としては、まずは親が子に対して「何をしたか」で判断せず「そこに存在していること」に喜びを感じて、それを言葉にして伝えることです。決して自分の理想を押し付けず、まずは存在してくれていることに感謝、そつ「生まれた瞬間の喜び」を日々思い出し出して接する、そんなイメージです。その感謝が子どもに通じたとき、子どもの無意識下に「自分の存在を肯定」するきっかけが生まれ、やがて自分に自信を持つことにつながるのです。子どもが豊かな人生を歩むための最初の道しるべは親が示して欲しいことなのです、ハイ。



パーソナリティ  
**藤田和宏**  
『教育★サプライズ!』  
毎週土曜日12:30～

プロフィール  
●松陰高等学校  
みなとみらい学習センター センター長  
高校中退／不登校の生徒と関わり20余年。  
『とりあえず卒業』にこだわる親をたしなめながら  
『昭和式』教育?に基づいて、生徒らを心から回復させる事に尽力する熱血漢。

空間・施設に調和して景観までも美しく  
「防災かまどベンチ」の導入分野が広がっています

家に進化を続ける防災ファニチャー

写真提供: (株)コトブキ

防災かまどベンチ・公園遊具・健康遊具・教育空間用什器備品  
株式会社 齋藤商会 TEL: 046-263-4802  
住所: 大和市桜森3-10-9

ヘルシーライフの実現は適度な運動とリラクゼーション。  
私たちは地域に根ざしたスポーツクラブを目指し、  
皆さんのサポーターとなります。

**アリーナつきみ野スポーツクラブ**  
〒242-0002 神奈川県大和市つきみ野2-1-8  
**TEL 046-272-1717**

<https://www.e-atsc.com/> **会員募集中!**